（口腔器分科会）

#:	1
番号:	PMID-2645086
著者:	L. Schou;C. Wight;N. Clemson;S. Douglas;C. Clark
掲載誌名:	Community Dent Oral Epidemiol
年:	1989
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：スタッフのみの介入　51、本人のみの介入　40、スタッフと本人の介入　51, 対照群／非曝露群：45, 性別：男女, 年齢下限：48, 年齢上限：99, 選定基準：Lothian にある 4 施設から、代表性のあるサンプルとして抽出された。
プログラムの内容:	プログラムの内容：口腔保健教育プログラムの実施, 介入期間：5 ヶ月間, 追跡率：75%
アウトカム指標:	副次アウトカム：上顎義歯のプラークスコア、口腔衛生習慣
結果概要:	結果の概要：介入プログラムの有意な効果は認められなかった。, 不利益：とくになし

（口腔器分科会）

#:	2
番号:	PMID-1499250
著者:	M. Weitz;C. Brownstein;M. Deasy
掲載誌名:	Clin Prev Dent
年:	1992
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：人数の記載なし（36 名をランダムに experimental ｇｒoup と control group に分けたという記載があるのみ。図表にも各群の人数は示されていない）。, 対照群／非曝露群：人数の記載なし（36 名をランダムに experimental ｇｒoup と control group に分けたという記載があるのみ。図表にも各群の人数は示されていない）。 性別：男女, 年齢下限：60, 特性その他：定期的なケアを受けていない者に限定, 選定基準：高齢者施設に在住し、定期的な歯科的なケアを受けている。
プログラムの内容:	プログラムの内容：0.12%クロロヘキシジン溶液 15ml による 30 秒間のうがいを１日２回実施する。, 介入期間：60 日間, 観察期間：60 日間, コンプライアンス：評価していない, 追跡率：100%
アウトカム指標:	主要アウトカム：歯肉炎（Loe & Silness の GI）、歯垢付着（Silness & Loe の PII）, 副次アウトカム：記載なし
結果概要:	結果の概要：介入群では、歯肉炎・歯垢付着ともに有意な減少（各 10.3%、16.7%）が認められた。また分散分析により対照群の傾向と比較しても有意な減少が認められた。, 不利益：記載なし。

（口腔器分科会）

#:	3
番号:	ICHU-1994226483
著者:	今井光枝;真木吉信;杉原直樹;他
掲載誌名:	老年歯科医学
年:	1994
研究方法:	ヒストリカルコントロール研究
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：６名，対照群／非曝露群：ヒストリカルコントロール（前後比較）なので、なし，年齢下限：64，年齢上限：81，選定基準：現在歯 15 歯以上。
プログラムの内容:	プログラムの内容：電動歯ブラシの使用方法を対象者に説明した後、1 ヶ月間、従来用いていた手用歯ブラシの代わりに電動歯ﾌﾞﾗｼを使用，介入期間:1 ヶ月，観察期間：1 ヶ月（ベースライン時と１ヶ月後に評価），コンプライアンス：アンケート調査を実施，追跡率：100%
アウトカム指標:	主要アウトカム：歯垢の付着状態（O'Reary の Plaque Control Record），副次アウトカム：歯周組織の状態（ポケット、出血）：WHOの診査基準（第３版）
結果概要:	結果の概要：1)歯垢付着率を初回検診と 1 ヵ月後検診で比較したところ,6 名中 4 名に電動歯ブラシによる歯垢除去効果が認められた。とくに隣接面と前歯部において効果的であった。 2)歯周組織に関してはプロービング時の出血部位数の減少と歯周ポケットの改善がみられた。

（口腔器分科会）

#:	4
番号:	ICHU-1997197084
著者:	米山武義;相羽寿史;太田昌子;他
掲載誌名:	日本老年医学会雑誌
年:	1997
研究方法:	非ランダム化比較試験
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：４名，対照群／非曝露群：５名，年齢下限：70，年齢上限：80，特性その他：平均年齢 75 歳，選定基準：精神的な障害は認められない者，除外基準：記載なし
プログラムの内容:	プログラムの内容：対象者が入所している施設の常勤歯科衛生士が、毎日、歯ブラシと歯間清掃用具を用い、歯面と口腔粘膜を清掃。，介入期間：3 ヶ月，観察期間：ベースライン時と１・２・３ヶ月後に診査を実施，コンプライアンス：記載なし，追跡率：100%
アウトカム指標:	主要アウトカム：歯肉炎：GI（Loe & Silness），副次アウトカム：歯垢： PII（Silness & Loe）
結果概要:	結果の概要：プログラム開始後 1 か月目より歯垢及び歯肉炎が減少し，研究終了時には歯垢付着，歯肉炎が当初のそれぞれの 1／3，1／9 まで改善をした。，不利益：記載なし

（口腔器分科会）

#:	5
番号:	PMID-10460956
著者:	L. V. Powell;R. E. Persson;H. A. Kiyak;P. P. Hujoel
掲載誌名:	Caries Res
年:	1999
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	性別：男女，年齢下限：60，選定基準：ワシントン大学公衆衛生受診者およびマイノリティの高齢者向けプログラム受診者。60 歳以上、残存歯が 6-23 歯、前年に歯科を受診していない、低収入、のいずれも満たす者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：口腔衛生の 2 時間の教育プログラム（Group1）＋週に 1 回のクロルヘキシジン含嗽（Group2)＋年 2 回のフッ素バーニッシュ塗布（Group3)＋6 か月に 1 回のスケーリング（Group4) コントロールは一般開業歯科医での通常のケア，介入期間：3 年間，観察期間：3 年間，コンプライアンス：201/297，追跡率：68%
アウトカム指標:	副次アウトカム：う蝕イベント数
結果概要:	結果の概要：クロルヘキシジン含嗽、フッ素バーニッシュ塗布、スケーリングによって、う蝕イベントは 27%減少（p=0.09）。

（口腔器分科会）

#:	6
番号:	CE-SEED-22001001510
著者:	H. Frenkel;I. Harvey;R. G. Newcombe
掲載誌名:	Community Dentistry and Oral Epidemiology
年:	2001
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：155，対照群／非曝露群：182，性別：男女，選定基準：英国 Avon 地区老人ホーム入所者，除外基準：重度認知症患者、無歯顎者で義歯を使用していない者（口腔ケアに適さないため）
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群：老人ホームの介護者への口腔ケアの指導。およそ1時間の講習で、口腔疾患に対するプラークの関与についての講義および義歯と口腔の清掃の実習。 コントロール群:とくに口腔ケアについては実施せず。 介入期間：1 時間，観察期間：6 か月。
アウトカム指標:	副次アウトカム：義歯のプラーク、義歯性口内炎、プラーク
結果概要:	結果の概要：介護者に口腔ケアの重要性と方法を指導することにより、要介護老人の義歯の汚れ、義歯性口内炎、プラークを有意に減少した，不利益：なし

（口腔器分科会）

#:	7
番号:	PMID-11686821
著者:	D. Simons;S. Brailsford;E. A. Kidd;D. Beighton
掲載誌名:	J Clin Periodontol
年:	2001
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：Chlorhexidine acetate/xylitol gum (ACHX)群　43、キシリトール群　37, 対照群／非曝露群：31, 性別：男女, 年齢下限：63, 年齢上限：99, 選定基準：60 歳以上、有歯顎者、研究参加の同意取得可能な者、研究開始 1 ヶ月間に抗生剤を使用していない者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：ACHX あるいはキシリトールガムを毎日 2 回噛む, 介入期間：12 ヶ月間, コンプライアンス：90%以上, 追跡率：68%
アウトカム指標:	副次アウトカム：Plaque Index(PI)、Gingival Index(GI)
結果概要:	結果の概要：ACHX は PI および GI が有意に減少した。, 不利益：とくになし

（口腔器分科会）

#:	8
番号:	PMID-12715926
著者:	T. Ohno;H. Uematsu;S. Nozaki;K. Sugimoto
掲載誌名:	J Med Dent Sci
年:	2003
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：50，対照群／非曝露群：40，性別：男女，年齢下限：66，年齢上限：94，特性その他：介護施設入所者，選定基準：舌苔が少量付着している（Kojima らの報告を参照）。，除外基準：味覚異常の主訴がある者、口腔乾燥や口腔粘膜疾患を有する者
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群は舌をブラシを用いて清掃、対照群は含嗽のみを行い、前後で味覚検査を実施。，介入期間：単回，コンプライアンス：90 名/90 名，追跡率：100%
アウトカム指標:	副次アウトカム：味覚（甘味、塩味、酸味、苦味）
結果概要:	結果の概要：舌清掃群は塩味と酸味の閾値が有意に低下したが、含嗽群には変化が認められなかった。，不利益：とくになし

（口腔器分科会）

#:	9
番号:	PMID-15341616
著者:	C. C. Wyatt;M. I. MacEntee
掲載誌名:	Community Dent Oral Epidemiol
年:	2004
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：NaF 群:128、CHX 群:122，対照群／非曝露群：119，性別：男女，年齢下限：54，年齢上限：101，選定基準：天然歯がある、少なくとも 3 年は余命がある、口腔診査に耐えられる、洗口剤使用が可能、研究協力の同意取得可能な者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：0.2% neutral sodium fluoride (NaF) solution、0.12% chlorhexidine (CHX) solution あるいはプラセボの洗口剤を毎日使用させる。，介入期間：2 年間，コンプライアンス：NaF:81%、CHX:78%、プラセボ:79%，追跡率：31%
アウトカム指標:	副次アウトカム：う蝕の発生
結果概要:	結果の概要：毎日の 0.2% NaF 洗口剤使用はう蝕の発生を有意に減少させた。，不利益：一般的には苦味や歯の着色だが、今回はとくに訴えなし。

（口腔器分科会）

#:	10
番号:	ICHU-2005189647
著者:	菊谷武;田村文誉;須田牧夫;萱中寿恵;西脇恵子;伊野透子;吉田光由;林亮;津賀一弘;赤川安正;足立三枝子;米山武義;伊藤英俊;大石暢彦;稲葉繁
掲載誌名:	老年歯科医学
年:	2005
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：49，対照群／非曝露群：49，性別：男女，選定基準：介護老人福祉施設入所者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：機能的口腔ケア（呼吸、頸部ストレッチ、口唇・頬・舌の運動）を週に 1 回、20 分間，介入期間：6 ヶ月間，観察期間：6 か月，追跡率：100%
アウトカム指標:	主要アウトカム：なし，副次アウトカム：口腔機能（舌圧）、反復唾液嚥下テスト（RSST）
結果概要:	結果の概要：機能的口腔ケアによって、舌圧が高まった。，不利益：口腔ケアのコスト

（口腔器分科会）

#:	11
番号:	PMID-15747895
著者:	F. Bellomo;F. de Preux;J. P. Chung;N. Julien;E. Budtz-Jorgensen;F. Muller
掲載誌名:	Gerodontology
年:	2005
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：29，対照群／非曝露群：30，性別：男女，年齢下限：72，年齢上限：97
プログラムの内容:	プログラムの内容：作業療法，介入期間：3 ヶ月間，観察期間：3 ヶ月間，追跡率：97%
アウトカム指標:	主要アウトカム：歯磨き回数，副次アウトカム：Plaque スコア
結果概要:	結果の概要：作業療法は、認知機能が低下した要介護者の口腔や義歯の清掃状態を改善させた。，不利益：とくになし

（口腔器分科会）

#:	12
番号:	PMID-16163908
著者:	B. C. Webb;C. J. Thomas;T. Whittle
掲載誌名:	Gerodontology
年:	2005
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：記載なし（抄録で 60 名をランダムに３群に分けたという記載があるのみ)。, 対照群／非曝露群：記載なし（抄録で 60 名をランダムに３群に分けたという記載があるのみ)。, 性別：男女, 特性その他：年齢については「平均 83.7 歳」という記述のみ。, 選定基準：記載なし, 除外基準：記載なし
プログラムの内容:	プログラムの内容：高齢者施設在住の総義歯使用者に対して２種類の義歯洗浄剤を１週間、使用する。 ・洗浄剤１：次亜塩素酸ナトリウム溶液（義歯を一晩浸漬） ・洗浄剤２：超音波洗浄（10 分間）, 介入期間：１週間, 観察期間：１週間, コンプライアンス：対象者本人だけでなく、高齢者施設の職員にも説明および実行の補助を求めている, 追跡率：100%
アウトカム指標:	主要アウトカム：細菌数（カンジダ種、嫌気性菌）の測定：介入期間（１週間）の前後に３カ所（上下顎義歯と口蓋部）を測定, 副次アウトカム：口蓋の写真撮影（標準化)：介入期間（１週間）の前後
結果概要:	結果の概要：２つの洗浄剤使用群では、ともに上下顎義歯のカンジダ・嫌気性菌と口蓋部のカンジダの菌数が減少したが、口蓋部の嫌気性菌は減少しなかった。, 不利益：記載なし

（口腔器分科会）

#:	13
番号:	PMID-17244135
著者:	M. I. MacEntee;C. C. Wyatt;B. L. Beattie;B. Paterson;R. Levy-Milne;L. McCandless;A. Kazanjian
掲載誌名:	Community Dent Oral Epidemiol
年:	2007
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：51，対照群／非曝露群：62，性別：男女，選定基準：長期療養型施設入所者。中程度の介護の状態（常時介護ではない）、天然歯を有する、認知機能・身体機能が安定している。 除外基準：なし
プログラムの内容:	プログラムの内容：まず、長期療養型施設の看護師に、歯科衛生士が口腔ケアの方法を教育。次いで、看護師が施設の介護者に 1 時間の口腔ケア教育を実施。，介入期間：3 か月，観察期間：3 か月，コンプライアンス：コンプライアンスの記載なし，追跡率：89%
アウトカム指標:	副次アウトカム：BMI、口腔の汚れ（Geriatric Simplified Debris Index）、咀嚼機能（自己評価）、栄養摂取（Mulnutrition Indicator Score）、歯肉からの出血(Gingival Bleeding Index）、残存歯数、歯の破折
結果概要:	結果の概要：施設入所高齢者の口腔ケアのため、看護師から介護者にピラミッド型の組織で指導を行っても、3 か月でいずれの指標においても改善は見られなかった。

（口腔器分科会）

#:	14
番号:	PMID-18194332
著者:	J. A. Gil-Montoya;I. Guardia-Lopez;M. A. Gonzalez-Moles
掲載誌名:	Gerodontology
年:	2008
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：16，対照群／非曝露群：4，性別：男女，年齢下限：69，年齢上限：92，選定基準：調査開始 1 年以上前から施設入所している。口腔乾燥に関連した臨床的特徴や症状がある。Barthel index が 80%より大きい。，除外基準：唾液フローを減じる全身疾患を有している。口腔乾燥症のための薬物治療を受けていたり含嗽剤を使用していたりする。製品の使用方法を理解できないほど認知機能が低下している。
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群：洗口剤と口腔ジェル(antimicrobial proteins lactoperoxidase, lactoferrin and lysozyme 含有）の使用 コントロール群：とくに何の処方も行わない。，介入期間：4 週間，観察期間：4 週間，コンプライアンス：記載なし，追跡率：100%
アウトカム指標:	主要アウトカム：OHIP,VAS,口腔乾燥の症状、唾液量、カンジダ。
結果概要:	結果の概要：洗口剤と口腔ジェルの使用は、OHIP（口腔 QOL）を向上させ、口腔乾燥および嚥下時の液体の必要性を改善させた。 不利益：とくになし

（口腔器分科会）

#:	15
番号:	PMID-9138198
著者:	S. J. Little;J. F. Hollis;V. J. Stevens;K. Mount;J. P. Mullooly;B. D. Johnson
掲載誌名:	J Periodontal Res
年:	1997
研究方法:	RCT
フロー番号:	4,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：54，対照群／非曝露群：53，性別：男女，年齢下限：50，年齢上限：70，選定基準：オレゴン州・ワシントン州の HMO（KP）加入者のうち、50-70 歳で、中程度の歯周炎を有する者。1 歯 4 点法計測で、6 部位以上に 4-7mm のポケットがあり、プロービング時の出血か歯肉の炎症があること。除外基準：運動機能に問題がある（歯ブラシができない）。残存歯が 18 未満。肝炎、糖尿病、免疫不全がある。歯肉腫脹を来す投薬を受けている。抗菌剤を内服している。定期的な歯石除去を除いて、6 か月以内に歯周治療を受けていない。
プログラムの内容:	プログラムの内容：1 週間ごとに 5 回の 90 分間の口腔衛生教室。指導は歯科医院で行った。指導の内容は PROCEED モデルに基づいて、患者の口腔衛生行動の変容を促すような内容の者とした。，介入期間：4 週間，観察期間：4 か月，コンプライアンス：教室への参加率は 90%，追跡率：86%
アウトカム指標:	副次アウトカム：プラーク指数、出血歯数、ポケットなどをベースラインと、4 か月の追跡後の計測
結果概要:	結果の概要：高齢者に対する、小グループでの行動理論に基づいた口腔衛生教育は、プラーク指数、出血歯数を改善した。プラークは、コントロールと比較して 7%減少（P＝0.002)、出血は 22%改善している（P=0.009)。

（口腔器分科会）

#:	16
番号:	PMID-16433641
著者:	J. Clavero;P. Baca;M. Paloma Gonzalez;M. J. Valderrama
掲載誌名:	Gerodontology
年:	2006
研究方法:	RCT
フロー番号:	4,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：27，対照群／非曝露群：29，性別：男女，年齢下限：65，年齢上限：93，選定基準：65 歳以上、6 歯以上有している、重篤な疾患を有していない、研究開始 2 週間前から抗生剤を使用していない、研究協力の同意取得が可能。
プログラムの内容:	プログラムの内容： クロルヘキシジンーチモール含有のバーニッシュ塗布，介入期間:6 ヶ月間，観察期間：6 ヶ月間。
アウトカム指標:	副次アウトカム：Plaque index と gingival index のスコア
結果概要:	結果の概要:介入群において、歯垢や歯肉腫脹の有意な減少は認められなかった。, 不利益：とくになし

（口腔器分科会）

#:	17
番号:	PMID-18586458
著者:	A. M. Beck;K. Damkjaer;N. Beyer
掲載誌名:	Nutrition
年:	2008
研究方法:	RCT
フロー番号:	4,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：62，対照群／非曝露群：59，性別：男女，年齢下限：84，年齢上限：90，選定基準：65 歳以上、体重計量可能、終末期の状態でない、入院していない、デンマークにある 7 つの介護施設のうちのいずれかに入所している者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：栄養 (1 日あたりチョコレート 25g、ココア 150ml あるいはミルクをベースとした補助食品 150ml)、週 2 回の集団での運動 (45-60 分、中程度の強度)、週 2 回の口腔ケア，介入期間：11 週間，観察期間：介入終了後 4 ヶ月まで，コンプライアンス：介入群　コンプライアンス不良者 6 名，追跡率：74%
アウトカム指標:	副次アウトカム：体重、BMI、栄養摂取量、握力、 Senior Fitness Test、Berg's Balance Scale、プラーク量
結果概要:	結果の概要：介入直後は、体重、BMI、エネルギー摂取、たんぱく質摂取、Berg's Balance Scale において 2 群間に有意な差が認められた。介入終了から 4 ヵ月後の体重変化の割合に有意な差は認められなかった。，不利益：とくになし

（口腔器分科会）

#:	18
番号:	ICHU-2008364291
著者:	Haruhisa Ibayashi;Yoshihisa Fujino;PhamTruong-Minh;Shinya Matsuda
掲載誌名:	The Tohoku Journal of Experimental Medicine
年:	2008
研究方法:	RCT
フロー番号:	4,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：26，対照群／非曝露群：28，性別：男女，年齢下限：65，選定基準：福岡県のある地区の健康な高齢者，除外基準：なし
プログラムの内容:	プログラムの内容：口腔機能改善のための運動プログラム。表情筋、舌、唾液腺、嚥下運動を含む。週に 1 回実施。，介入期間：6 ヶ月間，観察期間：6 ヶ月間，コンプライアンス：測定なし，追跡率：69%
アウトカム指標:	主要アウトカム：なし，副次アウトカム：咬合圧、RSST、唾液流出量
結果概要:	結果の概要：6 ヶ月間の口腔機能の訓練プログラムによって、咬合力（p=0.04)、RSST（p＜0.01)、安静時唾液流量（p<0.01)、刺激唾液流量（p=0.03）が改善した。，不利益：プログラム実施コスト

（口腔器分科会）

#:	19
番号:	PMID-19555360
著者:	C. Hakuta;C. Mori;M. Ueno;K. Shinada;Y. Kawaguchi
掲載誌名:	Gerodontology
年:	2009
研究方法:	非ランダム化比較試験
フロー番号:	4,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：79 名（※事後評価を受けなかった者，データに欠損のあった者は除外），対照群／非曝露群：62 名（※事後評価を受けなかった者，データに欠損のあった者は除外），性別：女性のみ，特性その他：介入群 75.6±6.4 歳，対照群 73.4±6.0 歳，選定基準：東京都内にある高齢者センター12 施設を利用した自立高齢者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：2 名の歯科衛生士による，口腔機能向上プログラム．2 時間のプログラムを全 6 回（月 2 回×3 ヶ月），10～15 名の小グループで受講．内容は，口腔保健や口腔機能に関する知識，口腔機能を向上させるための表情筋や舌の体操，唾液腺マッサージなど．，介入期間：3 ヶ月，観察期間：3 ヶ月，コンプライアンス：介入群において，ベースライン時は 120 名（男性 7 名含む）であったが，全 6 回のプログラムに参加したものは 90 名（男性 6 名含む）のみ。
アウトカム指標:	副次アウトカム：口腔内状態：現在歯数，う歯数，処置歯数，舌苔スコア（範囲，厚み），口臭の官能検査，舌の乾燥 口腔機能：水飲み試験，唾液分泌量，舌運動（前方に突き出して維持，時計回り・反時計回り・左右への運動），発音（「ウ」，「イ」を繰り返す），声の大きさ，口腔内の食物残渣
結果概要:	結果の概要：3 ヵ月後，介入群では舌苔スコアが有意に減少，官能試験のスコアが有意に改善，舌の乾燥スコアも有意に改善したが，対照群ではこれらの変化は認められなかった． 口腔機能については，介入群で舌や口唇の運動が有意に向上し，声の大きさや唾液分泌量も有意に上昇し，口腔内の食物残渣は有意に減少した．対照群ではこれらの変化は認められなかった． 不利益：なし

（口腔器分科会）

#:	20
番号:	PMID-15374188
著者:	T. Yoneyama;K. Hashimoto;H. Fukuda;M. Ishida;H. Arai;K. Sekizawa;M. Yamaya;H. Sasaki
掲載誌名:	Arch Gerontol Geriatr
年:	1996
研究方法:	その他
フロー番号:	6,3,5,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：A群 21 名、B群 25 名によるクロスオーバー試験のため、両群ともに介入群となる，対照群／非曝露群：A群 21 名、B群 25 名によるクロスオーバー試験のため、両群ともに非介入群となる，性別：男女，特性その他：平均年齢はA群が 77 歳（SD 7 歳）、B群が 79 歳（SD 9 歳）。，選定基準：過去３ヶ月間、身体的・精神的な症状が安定していた者，除外基準：褥瘡あり。 尿路感染あり
プログラムの内容:	プログラムの内容：歯科医師と衛生士による１日１回の口腔ケア。 看護師による毎食後の 1%ポピドンヨードを用いた含嗽またはアプリケーターによる咽頭部の洗浄（数分間）。，観察期間：１年半，コンプライアンス：介入は施設職員が主体となって行われるので高いと思われる。
アウトカム指標:	主要アウトカム：37.5℃以上の発熱日数（検温回数は 1 日３回），副次アウトカム：CRP、白血球数、α2 グロブリン
結果概要:	結果の概要：半年間にわたる口腔ケアの結果、発熱日数の減少（improve）には変化がみられなかったが、発熱日数の増加（degradation）についてはある限定された患者では抑制効果がみられた。

（口腔器分科会）

#:	21
番号:	PMID-10465203
著者:	T. Yoneyama;M. Yoshida;T. Matsui;H. Sasaki
掲載誌名:	Lancet
年:	1999
研究方法:	RCT
フロー番号:	6,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：184，対照群／非曝露群：182，性別：男女，選定基準：全国 11 か所の介護施設の入居者。，除外基準：記載なし
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群：看護師もしくは介護者が、毎食後に歯ブラシで口腔清掃を行い、毎日 1 回 1%ポビドンヨードを塗布したアプリケーターで咽頭を清拭した。 コントロール：介入なし。，介入期間：1996 年 9 月から 2 年間，観察期間：2 年間，コンプライアンス：2 年間で 51/417 名がは肺炎以外の理由で死亡。他の脱落の記載はない。，追跡率：87.8%
アウトカム指標:	主要アウトカム：肺炎の発症。胸部レントゲンによる肺の浸潤に加え、咳、37.8℃以上の発熱、もしくは呼吸困難。，
結果概要:	結果の概要：口腔ケア群では 21/184（11%）、コントロール群では 34/182（19%）に肺炎が発生した。リスク比は 1.67（95%信頼区間 1.01-2.75、p=0.04），不利益：とくになし。

（口腔器分科会）

#:	22
番号:	PMID-11710887
著者:	Yoshino A, Ebihara T, Ebihara S, Fuji H, Sasaki H.
掲載誌名:	JAMA
年:	2001
研究方法:	RCT
フロー番号:	6,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：20，対照群／非曝露群：20，性別：男女，特性その他：平均年齢 75.5 歳の施設入所高齢者。 選定基準：脳血管障害による嚥下障害のある施設入所高齢者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群：毎食後に介護者が歯ブラシと蒸留水で清掃を行った。コントロール群：自分自身で口腔ケアを実施させた。，介入期間：1 か月，観察期間：1 か月，コンプライアンス：脱落の記載なし，追跡率：100%
アウトカム指標:	主要アウトカム：LTSR の測定は実験開始後第３日、１０日、３０日目の朝食前にそれぞれ測定。ADL は歩行、階段昇降、食事、着衣、排泄、入浴、整容など７項目を評価し、認知機能は簡易心理機能検査(MMSE)によって評価した。また、唾液中のサブスタンスＰ濃度測定は LTSR 測定の前に行った。唾液中サブスタンス P 濃度、ADL、MMSE は実験開始時と３０日目に集計した。
結果概要:	結果の概要：開始時には両群の LTSR、唾液中サブスタンスＰ濃度、ADL、MMSE に特筆すべき差異はみられなかった。だが、口腔ケア開始後第３日、１０日、３０日目での LTSR は、介入群において 6.4(SE 1.6) 秒、4.4（SE 0.8）秒、4.2(SE 0.7) 秒と有意に改善した。30 日の時点では介入群においてサブスタンス P 濃度の有意な上昇もともなっており、ADL においても軽度の改善が伺えた。MMSE については有意な変化は両群とも見受けられなかった。

（口腔器分科会）

#:	23
番号:	PMID-11943036
著者:	T. Yoneyama;M. Yoshida;H. Mukaiyama;H. Okamoto;K. Hoshida;S. Ihara;S. Yanagisawa;S. Ariumi;T. Morita;Y. Mizuno;T. Ohsawa;Y. Akagawa;K. Hashimoto;H. Sasaki;and members of the oral careworking group
掲載誌名:	Journal of the American Geriatrics Society
年:	2002
研究方法:	RCT
フロー番号:	6,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：184，対照群／非曝露群：182，性別：男女，特性その他：高齢者福祉施設入所者。介入群　82.0±7.8 歳、対照群　82.1±7.5 歳，選定基準：過去 3 ヶ月間、身体症状や認知機能の状態が安定している者,
プログラムの内容:	プログラムの内容：毎食後の歯磨き（加えてポピヨンヨード使用した例もあり）と週 1 回の専門家による口腔ケア，介入期間：2 年間，コンプライアンス：366 名/417 名，追跡率：78
アウトカム指標:	主要アウトカム：modeified Barthel Index、肺炎による死亡，副次アウトカム：MMSE、肺炎の罹患、熱発した日数
結果概要:	結果の概要：肺炎の罹患は口腔ケア群で 11%、対照群で 19%(p<0.05)、肺炎による死亡は口腔ケア群で 7%、対照群で 16%(p<0.01)、熱発した患者数は介入群で 15%、対照群で 29%(p<0.01)と有意に少なかった。，不利益：とくになし

（口腔器分科会）

#:	24
番号:	PMID-12221387
著者:	M. Adachi;K. Ishihara;S. Abe;K. Okuda;T. Ishikawa
掲載誌名:	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod
年:	2002
研究方法:	RCT
フロー番号:	6,3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：77，対照群／非曝露群：64，性別：男女，特性その他：高齢者介護施設入居者。平均年齢　84 歳。
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群には週 1 回の専門家による口腔ケア。コントロールには従来通りのセルフケアを実施させた。，介入期間：2 年間，観察期間：2 年間，コンプライアンス：63 名/141 名，追跡率：45%
アウトカム指標:	主要アウトカム：肺炎による死亡，副次アウトカム：熱発した回数、口腔細菌数、呼気中 methylmercaptan
結果概要:	結果の概要：1 月あたりの熱発回数は口腔ケア群で 4%、対照群で 7%と口腔ケア群で低値であった。24 か月の観察期間中の肺炎による死亡割合は口腔ケア群で 2/40、対照群で 8/48 と口腔ケア群が有意に低値を示した。また、口腔ケア群の口腔スワブから培養される C albicans 数は、対照群に比べて有意に少なかった。，不利益：なし

（口腔器分科会）

#:	25
番号:	ICHU-2004144233
著者:	Takayuki Ohsawa;Takeyoshi Yoneyama;Kenji Hashimoto;Eiro Kubota;Mitsuhiro Ito;YoshidaKazu-ichi
掲載誌名:	The Bulletin of Kanagawa Dental College
年:	2003
研究方法:	RCT
フロー番号:	6,3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：25，対照群／非曝露群：24，性別：男女，選定基準：施設入所者。過去 3 ヶ月間、身体機能、認知機能が安定している者。，除外基準：ぜんそく、慢性呼吸器疾患がない。経管栄養を受けていない。
プログラムの内容:	プログラムの内容：週に２，３回、歯科衛生士が口腔ケアを実施。他の日は、介護者あるいは看護師が歯ブラシを実施。，介入期間：2 年間，観察期間：2 年間，コンプライアンス：脱落者の記載なし。
アウトカム指標:	主要アウトカム：37.8℃以上の発熱イベント数。肺炎の発生（医師の診断）。6 か月ごとの ADL 測定（Barthel Index）。，
結果概要:	結果の概要：発熱イベントは介入群で 49 回、コントロールでは 72 回（p=0.015）。ADL 指標改善は介入群で 14 名、コントロールで 5 名（p=0.01）。，不利益：介入コスト

（口腔器分科会）

#:	26
番号:	PMID-15486365
著者:	A. Watando;S. Ebihara;T. Ebihara;T. Okazaki;H. Takahashi;M. Asada;H. Sasaki
掲載誌名:	Chest
年:	2004
研究方法:	RCT
フロー番号:	6,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：30，対照群／非曝露群：29，性別：男女，年齢下限：70，年齢上限：94，選定基準：老健施設入所高齢者。身体症状や認知機能状態が過去 3 ヶ月間、安定している。，除外基準：慢性呼吸器疾患患者
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群：毎食後の歯磨きと義歯清掃、週 1 回の義歯洗浄、週 1 回の専門家による口腔ケア コントロール群：自力による口腔ケア，介入期間：1 ヶ月間，観察期間：1 か月，コンプライアンス：60 名中 59 名，追跡率：98
アウトカム指標:	主要アウトカム：Barthel index，副次アウトカム：MMSE、 咳反射感受性、血清 substance P
結果概要:	結果の概要：週 1 回の口腔ケアを実施した介入群で、咳反射感受性の有意な改善が認められた。，不利益：とくになし

（口腔器分科会）

#:	27
番号:	PMID-16325937
著者:	S. Abe;K. Ishihara;M. Adachi;H. Sasaki;K. Tanaka;K. Okuda
掲載誌名:	Arch Gerontol Geriatr
年:	2006
研究方法:	RCT
フロー番号:	6,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：98 名，対照群／非曝露群：92 名，性別：男女，特性その他：介入群の平均年齢 82±8 歳、コントロール群の平均年齢 84±6 歳。，選定基準：東京都内のデイケア施設に通所している地域居住高齢者 216 名からインフォームドコンセントのとれた者。，除外基準：なし。
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群：週に 1 回、歯科衛生士が、歯ブラシ、フロス、舌ブラシを使用して口腔ケアを実施。また、口腔清掃の指導を受けた。 コントロール群：指導なしに自力での口腔清掃を続けさせた。，介入期間：6 か月，観察期間：6 か月，コンプライアンス：26 名エントリー。26 名は入院のためデイケアへの通所が困難になったため脱落。他には脱落なし。，追跡率：88%
アウトカム指標:	主要アウトカム：インフルエンザの発症。診断は、37.8℃以上の発熱があった者に対して、Quick Vue kit にて抗原の迅速診断を実施した。，副次アウトカム：唾液中の総菌数。朝食後 2 時間目の唾液を Trypticase soy agar で培養して、嫌気性菌の総菌数を係数した。
結果概要:	結果の概要：介入群では、98 名中 1 名にインフルエンザが発症、コントロール群では 92 名中 9 名にインフルエンザが発症。コントロール群のインフルエンザ発症の相対リスクは 0.1（95%Ci>i 0.01-0.81, p=0.008)。，不利益：とくになし。

（口腔器分科会）

#:	28
番号:	ICHU-2008084419
著者:	足立三枝子;原智子;斉藤敦子;坪井明人;石原和幸;阿部修;奥田克爾;渡邉誠
掲載誌名:	老年歯科医学
年:	2007
研究方法:	RCT
フロー番号:	6,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：49，対照群／非曝露群：47，性別：男女，年齢下限：65，選定基準：東京都 A 市の介護保険通所介護利用者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：週１回、歯科衛生士による口腔ケアと口腔清掃の指導，介入期間：6 か月，観察期間：6 か月，追跡率：100%
アウトカム指標:	主要アウトカム：要介護状態区分，副次アウトカム：介入期間中のインフルエンザへの罹患、感冒症候群の罹患の有無
結果概要:	結果の概要:介入群では気道感染症罹患 8.2%に対し対照群では 25.5%が罹患（ｐ＜0.05）。介入群で要介護度軽度化が有意に増加（ｐ＜0.05）。，不利益：コスト

（口腔器分科会）

#:	29
番号:	ICHU-2008135377
著者:	鈴木美保
掲載誌名:	老年歯科医学
年:	2007
研究方法:	RCT
フロー番号:	6,3,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：272，対照群／非曝露群：255，性別：男女，選定基準：歯科治療を要する施設入所の高齢障害者，除外基準：緊急性の高い歯科疾患を有するもの
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群にはベースライン調査後、即時に歯科治療実施，介入期間：8 週間，観察期間：8 週間。
アウトカム指標:	主要アウトカム：FIM、Facescale 等使用，副次アウトカム：口腔の自覚症状、セルフケア、歯数、口腔の汚れ、水飲みテストなど
結果概要:	結果の概要：歯科治療を要する高齢障害者に歯科治療を行うことにより、見当識、FIM、Facescale,口腔機能評価に改善が見られた，不利益：なし

（口腔器分科会）

#:	30
番号:	PMID-19261341
著者:	M. Naito;T. Kato;W. Fujii;M. Ozeki;M. Yokoyama;N. Hamajima;E. Saitoh
掲載誌名:	Arch Gerontol Geriatr
年:	2010
研究方法:	非ランダム化比較試験
フロー番号:	6,
セッティング:	施設入所,
対象集団:	介入群／曝露群：11 名，対照群／非曝露群：14 名，性別：男女，年齢下限：65，特性その他：介入群 78.2±9.9 歳、対照群 81.2±7.9 歳，選定基準：施設に 30 日以上滞在しており、年齢 65 歳以上。
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群：エントリー後、口腔ケアおよび歯科治療を開始。コントロール群：観察期間中は口腔ケアおよび歯科治療を行わず、観察期間終了後に歯科治療を開始。，介入期間：6 週間，観察期間：6 週間，コンプライアンス：25/30，追跡率：100%
アウトカム指標:	主要アウトカム：ADL（FIM)をベースラインと 6 週後に測定，副次アウトカム：口腔関連 QOL（GOHAI）
結果概要:	結果の概要：6 週後，介入群では GOHAI スコアが有意に改善（平均 47.9±9.7 から 54.2±7.3、P=0.04）したが、コントロール群では変化は見られなかった（49.7±9.8 から 50.9±7.9、p=0.45）。FIM も、歯科治療群で改善が見られ、コントロール群と比較した差異は、性別、年齢、自立度などの因子を調整した後も、有意な差が認められた（p=0.03）。，不利益：なし

（うつ予防分科会）

No:	1
番号:	PMID-18615497
著者:	Wilkinson P, Alder N, Juszczak E, Matthews H, Merritt C, Montgomery H, Howard R, Macdonald A, Jacoby R
掲載誌名:	Int J Geriatr Psychiatry
年:	2009
研究方法:	RCT
フロー番号:	5,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：22, 対照群／非曝露群：23, 性別：男女, 年齢下限：60, 特性その他：家庭医および精神科専門医受診中の 60 歳以上大うつ病患者。, 選定基準：調査前年から調査時までにICD10 大うつ病診断基準を満たした患者。, 除外基準：MMSE（Mini-Mental State Examination 認知機能検査）スコア 24 点以下、重症アルコール依存症、双極性障害患者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：グループでの認知行動療法。標準化されたプロトコールに従い計 8 回のグループ治療を 10 週間で実施。, 介入期間：10 週間, 観察期間：1 年間, コンプライアンス：0.81（18/22 名）, 追跡率：0.8
アウトカム指標:	アウトカム：MADRS（Montgomery- Åsberg Depression Rating Scale）スコア 10 点以上で定義されるうつ病の再発。割り付けを知さられていない看護師によって評価された。,
結果概要:	結果の概要：本報告は引き続く本調査前のパイロットスタディであるために対象者数が少なく結果は統計学的に有意ではなかったが、計 8 回（10 週間）の集団認知行動療法によるうつ病再発予防効果が半年後（RR＝0.34）および 1 年後（RR＝0.70）にともに観察された。,

（うつ予防分科会）

No:	2
番号:	MANU-001
著者:	Wolinsky FD, Vander Weg MW
掲載誌名:	J Gerontol A Biol Sci Med Sci
年:	2009
研究方法:	RCT
フロー番号:	4,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：1524（3 アーム），対照群／非曝露群：512，性別：男女，年齢下限：65，特性その他：公的介護を受けずに自立している地域在住者，除外基準：認知症、視力障害、Alzheimer病、1 年以内の脳卒中、悪性腫瘍、コミニュケーションが困難な者、転居予定者等
プログラムの内容:	プログラムの内容：介入群は運動プログラムに加えて①記憶力トレーニング（508 名、特に言語に関する記憶に着目）、②論理力トレーニング（498 名、問題解決についての論理的トレーニング）、③視力認知トレーニング（518 名、視覚情報を早く見つけて同定する訓練）のいずれかに割り付けられた。介入回数（10 回）はすべて同じ。，介入期間：10 回，観察期間：5 年間，コンプライアンス：記載なし，追跡率：0.54
アウトカム指標:	アウトカム：抑うつ尺度（CES－D）1 年後と 5 年後,
結果概要:	結果の概要：視力認知トレーニング群においては抑うつ度に改善が認められた。この効果は 5 年後においても観察された。他の介入においては効果は認められなかった。,

（うつ予防分科会）

No:	3
番号:	PMID-18068829
著者:	Eyigor S, Karapolat H, Durmaz B, Ibisoglu U, Cakir S
掲載誌名:	Arch Gerontol Geriatr
年:	2009
研究方法:	RCT
フロー番号:	3,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：20, 対照群／非曝露群：20, 性別：女性のみ, 年齢下限：65, 特性その他：外来受診者から募集された老年女性, 選定基準：ADLが自立している, 除外基準：大うつ病、重度認知症、運動に参加できない筋骨格系障害、重度神経学的合併症（脳卒中、パーキンソン病、麻痺）、深刻な循環器疾病、コントロール不良の慢性疾患（糖尿病、ガンなど）
プログラムの内容:	プログラムの内容：トルコ民族舞踊への参加。1 回1時間、毎週 3 回、8 週間実施。さらに毎週 2 回以上は 30 分以上歩くように指導, 介入期間：8 週間, コンプライアンス：95%, 追跡率：0.925
アウトカム指標:	アウトカム：運動機能,
結果概要:	結果の概要：民族舞踊教室参加による身体機能やQOLは改善が認められた。一方でGDSによって評価された抑うつ状態には介入の効果は認められなかった。, 不利益：記載なし

（うつ予防分科会）

No:	4
番号:	PMID-16860874
著者:	Allart-van Dam E, Hosman CM, Hoogduin CA, Schaap CP
掲載誌名:	J Affect Disord
年:	2007
研究方法:	RCT
フロー番号:	5,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:68, 対照群／非曝露群:42, 性別:男女, 年齢下限:16, 年齢上限:65, 特性その他:現在、精神症状に対して医学的および心理・社会的治療を受けている者を新聞テレビ広告にて募集。, 選定基準:BDIスコア 10 以上、調査時点で大うつ病の診断基準を満たしていない、今までに双極性障害の診断を受けたことがない、調査時点で治療が必要な性心疾患がない、グループ治療に支障を来すおそれがない者。,
プログラムの内容:	プログラムの内容:集団認知行動療法:毎週1回2時間、8－11 人の参加者により実施。, 介入期間:12 週間, 観察期間:治療終了後 1 年間, コンプライアンス:56%, 追跡率:94.5
アウトカム指標:	アウトカム:うつ病発症 (Composite International Diagnostic Interview による診断), 副次アウトカム:BDI、GHQ、ATQ、NPVZW, SIG, PESMR
結果概要:	結果の概要:介入後のうつ病発症率減少については集団認知行動療法による効果は認められなかった。一方で調査開始時点でのBDIが低かった対象者においてはBDIの減少効果が認められた。開始時点BDIが高い群においては効果は認められなかった。,

（うつ予防分科会）

No:	5
番号:	ICHU-2006130275
著者:	上岡洋晴，岡田真平，高橋亮輔，高橋美絵，武藤芳照，黒柳律雄，小松泰喜，江夏亜希子
掲載誌名:	Osteoporosis Japan
年:	2006
研究方法:	RCT
フロー番号:	4,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：19，対照群／非曝露群：14，性別：女性のみ，特性その他：中高年女性との記載あり、年齢情報なし，選定基準：記載なし，除外基準：記載なし
プログラムの内容:	プログラムの内容：週一回の温泉入浴、1 時間の生活指導（食事、運動など）介入群には 6 ヶ月、対象群には 3 ヶ月実施。，介入期間：3－6 ヶ月，観察期間：1 年間，コンプライアンス：100%，追跡率：1
アウトカム指標:	アウトカム：自己評価式抑うつ尺度,
結果概要:	結果の概要：1 年後のフォローアップにて 3 ヶ月介入群では効果がなかったが 6 ヶ月介入群ではうつ得点が低い傾向があったと報告されているが、解析方法には疑問が残り結果の解釈は慎重になるべきと考えられた。，不利益：記載なし

（うつ予防分科会）

No:	6
番号:	PMID-16358106
著者:	H. K. Antunes;S. G. Stella;R. F. Santos;O. F. Bueno;M. T. de Mello
掲載誌名:	Rev Bras Psiquiatr
年:	2005
研究方法:	RCT
フロー番号:	4
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：23, 対照群／非曝露群：23, 性別：男性のみ, 年齢下限：60, 年齢上限：75, 特性その他：健康な健康な 60-75 歳男性。どのような母集団から募集されたか等の記述はない。, 選定基準：7年以上の教育歴、定期的な運動をしていないもの。, 除外基準：向精神薬内服中の者、運動制限が必要な疾病管理者、外科的治療を最近（期間記載なし）受けていた者、注意が必要となる医学的所見（詳細記載なし）があった者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：週3回、6ヶ月間にわたる有酸素運動プログラム。内容は自転車（ペダル漕ぎ）運動で運動時間は当初20分から開始して、その後60分まで延長する。, 介入期間：6ヶ月間, 観察期間：6ヶ月間, コンプライアンス：100%, 追跡率：1
アウトカム指標:	アウトカム：自記式調査票によるGDS（抑鬱）、STAI（不安気質・症状）、SF36（OQOL）が介入の前後で調査された。,
結果概要:	結果の概要：介入によるGDS（抑鬱）、STAI（不安症状）、SF36（OQOL）における positive な効果が有意に検出された。, 不利益：記載なし

（うつ予防分科会）

No:	7
番号:	PMID-14606735
著者:	M. S. Clark;S. Rubenach;A. Winsor
掲載誌名:	Clin Rehabil
年:	2003
研究方法:	RCT
フロー番号:	3
セッティング:	病院入院，施設入所，地域在住者，
対象集団:	介入群／曝露群：32，対照群／非曝露群：30，性別：男女，特性その他：平均年齢対照群 71.2 歳、介入群 71.3 歳，選定基準：脳卒中後リハビリテーション患者で自宅退院後、家族と同居する患者。，除外基準：重度言語障害、英語力に問題、認知障害、施設入所予定者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：本人と配偶者に対する社会福祉士（Social worker）による 3 回の訪問（一回一時間、退院3週間後、2ヶ月後、5ヶ月後）による脳卒中やその再発予防のための知識や利用できるサービスなどに関する情報提供・教育。，介入期間：5ヶ月，観察期間：6 ヶ月，コンプライアンス：0.914，追跡率：0.912
アウトカム指標:	アウトカム：退院6ヶ月後，副次アウトカム：退院6ヶ月後
結果概要:	結果の概要：うつ症状についての有意な効果は観察されなかった。，不利益：特記なし。

（うつ予防分科会）

No:	8
番号:	PMID-11487602
著者:	N. A. Singh;K. M. Clements;M. A. Singh
掲載誌名:	J Gerontol A Biol Sci Med Sci
年:	2001
研究方法:	RCT
フロー番号:	5
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:17, 対照群／非曝露群:15, 性別:男女, 年齢下限:60, 年齢上限:84, 特性その他:平均71歳　男性37%　婚姻者50%　鬱症状の期間30ヶ月　32例中大鬱病17例、小うつ病13例、気分障害2例。, 選定基準:2つの地域住民登録(Human Nutrition Research Center on Aging・Harvard Coporative for Aging)から募集された。この集団から、60歳以上で調査リクルート時BDI>12。かつDSMⅣで単極性うつまたは気分障害の診断基準を満たす者が対象として選定された。, 除外基準:DSMⅣで痴呆の診断基準を満たす。Folstein Mini Mental State socre<23。不安定性虚血性心疾患、6ヶ月以内の心筋梗塞罹患。進行性の重傷神経疾患。症候性鼠径ヘルニア、双極性障害、活動性精神病(Psychosis)、希死念慮、精神科通院中患者、3ヶ月以内の抗うつ薬処方あり、他の漸増抵抗運動プログラム(progressive-resistance training)参加中。1ヶ月以内に2回以上のエアロビクス運動に参加していた者。
プログラムの内容:	プログラムの内容:トレーナーによる指導管理下での筋肉トレーニングプログラム。プログラムの内容は筋力トレーニング機器を用いた漸増抵抗運動で、1回45分を週3日の割合で実施。4週間毎に筋力測定が実施され運動強度の見直しが実施された。 介入期間終了後は、①指導者なしでの調査施設での運動継続。②自宅での機器を用いない運動継続、③地域運動施設での機器を用いた運動継続、の3つのオプションが提示された。, 介入期間:10週間, 観察期間:26ヶ月, コンプライアンス:73%(20回以上のトレーニング参加の割合), 追跡率:0.94
アウトカム指標:	アウトカム:BDIは自記式調査票により0,6,10,20週に実施。, 副次アウトカム: BDI Philadelphia Geriatric Center Morale Scale, Ewart's Self efficacy Scale
結果概要:	結果の概要:介入群においてBDIの有意な減少を認めた。BDIの減少は特に運動療法による介入実施中の期間において著明であったが、追跡満了期間の26ヶ月後においても有意な差が検出された。, 不利益:なし。

（うつ予防分科会）

No:	9
番号:	PMID-11890484
著者:	J. McCusker;J. Verdon;P. Tousignant;L. P. de Courval;N. Dendukuri;E. Belzile
掲載誌名:	J Am Geriatr Soc
年:	2001
研究方法:	RCT
フロー番号:	3
セッティング:	病院入院,
対象集団:	介入群／曝露群：178, 対照群／非曝露群：210, 性別：男女, 年齢下限：65, 特性その他：男性が 61%、独居者が 48%。, 選定基準：救急外来から入院した65歳以上の患者で退院が決定した者のうち ISAR(Identification of seniros at risk) score>=2 の者, 除外基準：老人病院など施設入所者からの紹介患者、予定入院患者、英語またはフランス語が話せない患者、遠隔地在住、健康状態が安定していない患者、認知症スクリーニングで陽性であった患者、代理人となる家族がいない患者、病院スタッフと面識がある患者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：入院契機となった疾病や医療的介入が必要な既往症についアセスメントを実施して 、在宅介護サービスを紹介し1次医療機関や地域の保健センターへ情報提供を実施する。, 介入期間：紹介先への予約や受診が完了するまでの限られた期間, 観察期間：4ヶ月, コンプライアンス：84.5%, 追跡率：0.869
アウトカム指標:	アウトカム：4ヶ月後に電話で評価。ADLは OARSS（Older American Resources and Services Scalse）、抑鬱尺度はGDS(Geriatric Depression Scale)による。,
結果概要:	結果の概要：介入によりADL低下予防効果が認められたが、抑鬱症状については有意な予防効果は観察されなかった。, 不利益：特記事項なし。

（うつ予防分科会）

No:	10
番号:	PMID-17568246
著者:	Benzer W, Platter M, Oldridge NB, Schwann H, Machreich K, Kullich W, Mayr K, Philippi A, Gassner A, Dörler J, Höfer
掲載誌名:	Eur J Cardiovasc Prev Rehabil
年:	2007
研究方法:	非ランダム化比較試験
フロー番号:	5,
セッティング:	病院入院, 地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:62(入院介入)+87(外来介入), 対照群／非曝露群:67, 性別:男女, 特性その他:平均年齢 56. 0 歳。 冠動脈疾患入院治療後患者(弁置換術、慢性心不全、心移植患者含む), 選定基準: 冠動脈疾患入院治療後患者(弁置換術、慢性心不全、心移植患者含む),
プログラムの内容:	プログラムの内容:運動療法が中心にカウンセリング等の心理療法を付加したプログラム。 入院介入:4 週間(週 5 日間)の入院リハビリテーション 外来介入:3 ヶ月(週 2 回)の外来通院リハビリテーション 対象:通常診療, 介入期間:入院介入 4 週間、外来介入 3 ヶ月,
アウトカム指標:	アウトカム:抑うつ度(Hospital Anxiey Depression Scale)、QOL(MacNew Heart _Disease health related quality of life questionair),
結果概要:	結果の概要:入院リハビリ、外来リハビリともに通常治療と比較して抑うつ度に対する protective な効果を認めた。この効果は外来リハビリ患者群においてより大きかった。,

（うつ予防分科会）

No:	11
番号:	ICHU-2006136329
著者:	八重樫由美, 黒澤美枝, 坂田清美, 小栗重統, 丹野高三, 酒井明夫, 大塚耕太郎, 智田文徳, 西信雄, 岡山明, 野原勝
掲載誌名:	岩手公衆衛生学会誌
年:	2006
研究方法:	非ランダム化比較試験
フロー番号:	4,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：71,000 人, 対照群／非曝露群：24,000 人, 性別：男女, 年齢下限：20, 年齢上限：79, 特性その他：1つの自治体に対して介入を実施し、対象地区と比較している。, 選定基準：介入先自治体選定手順の記載なし,
プログラムの内容:	プログラムの内容：うつ病についての集団健康教育プログラム：一般住民への教育（講義+グループ討議）に加えて、医療従事者への教育（うつ病に関する院内研修会）、地域の保健推進委員や民生委員、町内会の代表者に対するリーダー研修会を開催, 介入期間：2 年 9 ヶ月, 観察期間：2 年 9 ヶ月,
アウトカム指標:	アウトカム：両地域で住民基本台帳から無作為抽出された住民にたいして介入期間前後で調査票を配布。うつ病についての知識や態度、自記式うつ尺度（SDS）での評価を実施した。,
結果概要:	結果の概要：介入地域においてうつ病についての知識（薬物治療の有効性等）や自治体の活動の認知度の向上が認められた。一方で「かかりつけ医に心の問題で相談できる」という態度面や抑うつ尺度（SDS）には効果は認められなかった。,

（うつ予防分科会）

No:	12
番号:	ICHU-2007056958
著者:	朝田隆
掲載誌名:	公衆衛生
年:	2006
研究方法:	非ランダム化比較試験
フロー番号:	4
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：約 400 名，対照群／非曝露群：介入に参加しなかった住民から 3 年後調査に応じた者。，性別：男女，年齢下限：65，特性その他：65 歳住民の希望者，選定基準：65 歳以上住民の参加希望者，除外基準：記載なし
プログラムの内容:	プログラムの内容：以下の中から住民が希望するプログラムを選択：睡眠（睡眠行動調査にもとづく指導）、運動（有酸素運動）、栄養（EPAやDHA等を含むサプリメント）からなる認知症予防プログラム，介入期間：3 年間，観察期間：3 年間，コンプライアンス：60%,
アウトカム指標:	アウトカム：事業開始 3 年後にGDSを調査,
結果概要:	結果の概要：対象についての正確な人数やプログラム別参加者数等の基本的な情報がほとんど記載されておらず詳細は不詳であるが、プログラム参加者においてはうつ気分に改善を認めたと報告されていた。,

（うつ予防分科会）

No:	13
番号:	PMID-19880930
著者:	Akbaraly TN, Brunner EJ, Ferrie JE, Marmot MG, Kivimaki M, Singh-Manoux A
掲載誌名:	Br J Psychiatry
年:	2009
研究方法:	コホート研究
フロー番号:	1,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：野菜・果物・魚などの摂取の多い者（Whole food 群）、お菓子や揚げもの・加工肉の摂取頻度の高い者（processed food），対照群／非曝露群：摂取頻度が低い者（摂取頻度による分類），性別：男女，年齢下限：35，年齢上限：55，特性その他：公務員,
プログラムの内容:	プログラムの内容：コホート研究，観察期間：5 年間,
アウトカム指標:	アウトカム：抑うつ度：CES-D（うつ病スケール）調査票を用いた,
結果概要:	結果の概要：食習慣と五年後に測定された抑うつ度に関連が認められた（加工食品 processed food の摂取頻度が高い者は抑うつ度が高かった。また whole foodsy食習慣は protective に関連していた）。追加された追跡調査においてはベースライン時点での抑うつを調整しても同様の所見が認められた。,

（うつ予防分科会）

No:	14
番号:	ICHU-2009340677
著者:	平井寛(日本福祉大学地域ケア研究推進センター), 近藤克則, 尾島俊之, 村田千代栄
掲載誌名:	日本公衆衛生雑誌
年:	2009
研究方法:	コホート研究
フロー番号:	2
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:2963, 対照群／非曝露群:1143, 性別:男女, 年齢下限:65, 特性その他:要介護認定を受けていない地域高齢者, 選定基準:対象地域在住で要介護認定を受けていな者, 除外基準:歩行入浴排泄が自立していないもの、観察期間中死亡者等
プログラムの内容:	プログラムの内容:コホート観察研究, 観察期間:3 年間, 追跡率:0.806
アウトカム指標:	アウトカム:要介護認定,
結果概要:	結果の概要:うつ予防研究ではないが本邦において、うつ状態が要介護認定のリスクであることが観察研究によって示された。, 不利益:なし

（うつ予防分科会）

No:	15
番号:	PMID-18031575
著者:	Gulliksson M, Burell G, Lundin L, Toss H, Svärdsudd KPsychosocial factors during the first year after a coronary heart disease event in cases and referents
掲載誌名:	BMC Cardiovasc Disord
年:	2007
研究方法:	コホート研究
フロー番号:	2,
セッティング:	病院入院, 地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：146, 対照群／非曝露群：1038, 性別：男女, 年齢上限：75, 特性その他：冠動脈疾患患者と一般住民の比較研究, 選定基準：研究実施大学病院における心筋梗塞、経皮冠動脈治療、冠動脈バイパス移植術後の入院治療後で家庭医へのコンサルテーションが実施されている者。, 除外基準：同様のプログラムへの参加中、スエーデン語が話せない者。
プログラムの内容:	プログラムの内容：コホート研究, 観察期間：最長 11 年間,
アウトカム指標:	アウトカム：Everyday Life Stress Scale(ストレス), Maastricht Qestioneair（疲労）、Hamilton Depression Scale（抑うつ）、Social Support Scale(社会支援)他,
結果概要:	結果の概要：心筋梗塞入院治療後患者と一般住民では抑うつ度の変化に差はなかった。,

（うつ予防分科会）

No:	16
番号:	ICHU-2006135490
著者:	藤原佳典(東京都老人総合研究所 地域保健研究グループ), 天野秀紀, 熊谷修, 吉田裕人, 藤田幸司, 内藤隆宏, 渡辺直紀, 西真理子, 森節子, 新開省二
掲載誌名:	日本公衆衛生雑誌
年:	2006
研究方法:	コホート研究
フロー番号:	2
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	年齢下限:65, 特性その他:65 歳以上高齢者 1225 名, 除外基準:要介護認定者
プログラムの内容:	観察期間:3 年 4 ヶ月,
アウトカム指標:	アウトカム:要介護認定,
結果概要:	結果の概要:コホート研究:抑うつ状態が要介護認定の予見因子であると観察された（女性においては有意な関連は観察されなかった）。,

（うつ予防分科会）

No:	17
番号:	ICHU-2007068034
著者:	吉田祐子(東京都老人総合研究所 自立促進と介護予防研究チーム), 熊谷修, 岩佐一, 杉浦美穂, 金憲経, 吉田英世, 古名丈人, 藤原佳典, 新開省二, 渡辺修一郎, 鈴木隆雄
掲載誌名:	老年社会科学
年:	2006
研究方法:	コホート研究
フロー番号:	2
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:249, 対照群／非曝露群:775, 性別:男女, 年齢下限:65, 特性その他:地域高齢者健診の受診者(健診参加できる程度に ADL が自立した高齢者), 除外基準:運動評価情報が欠損値である者、死亡者
プログラムの内容:	プログラムの内容:コホート研究, 観察期間:2 年間, 追跡率:0.908
アウトカム指標:	アウトカム:運動習慣:聞き取り面談調査により「運動やスポーツを定期的にしていますか」の問いに対して「している・していない」の一つを選択させ評価した。,
結果概要:	結果の概要:うつ病予防研究ではないが、運動開始高齢者と運動を開始しなかった高齢者を比較すると、開始しなかった者では抑うつ症状(GDS にて評価)の有症率が高い傾向があった(有意差なし)。一方ですでに運動をしている高齢者の運動中止と抑うつ症状には明らかな関連は認められなかった。,

（うつ予防分科会）

No:	18
番号:	ICHU-2007133139
著者:	岩佐一(東京都老人総合研究所 自立促進と介護予防研究チーム), 鈴木隆雄, 吉田祐子, 權珍嬉, 吉田英世, 金憲経, 杉浦美穂, 古名丈人
掲載誌名:	日本老年医学会雑誌
年:	2006
研究方法:	コホート研究
フロー番号:	2
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:49, 対照群／非曝露群:790, 性別:男女, 年齢下限:70, 年齢上限:84, 特性その他:地域在宅高齢者を対象とした包括健診プログラムに参加した者 839 名。, 選定基準:健診参加者, 除外基準:死亡者・転居者等
プログラムの内容:	プログラムの内容:コホート研究, 観察期間:2 年, 追跡率:0.574
アウトカム指標:	アウトカム:認知機能:Mini Mental State Examnination,
結果概要:	結果の概要:うつ予防研究ではないが、コホート研究において追跡脱落者は追跡が可能であった者と比較して有意にうつ傾向者が多いことがデータとして示されている。追跡群におけるうつ状態者の割合が 2.5%であったのに対して脱落群においてはうつ傾向者は 10.4%であった。,

（うつ予防分科会）

No:	19
番号:	ICHU-2006091547
著者:	新開省二(東京都老人総合研究所 地域保健研究グループ), 藤田幸司, 藤原佳典, 熊谷修, 天野秀紀, 吉田裕人, 竇貴旺
掲載誌名:	日本公衆衛生雑誌
年:	2005
研究方法:	コホート研究
フロー番号:	2
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:抑うつ状態, 対照群／非曝露群:非抑うつ状態, 性別:男女, 年齢下限:65, 特性その他:某町在住の 65 歳以上住民全員, 選定基準:全住民, 除外基準:調査不応答者
プログラムの内容:	プログラムの内容:コホート研究, 観察期間:2 年間, コンプライアンス:1,140/1,322 名, 追跡率:0.862
アウトカム指標:	アウトカム:閉じこもり(二年後に外出頻度についての問診により判定、外出頻度週一回以下),
結果概要:	結果の概要:抑うつ予防研究ではないが、抑うつ度が引きこもりの予見因子(RR2.18)であることが示された。,

（うつ予防分科会）

No:	20
番号:	ICHU-2009125354
著者:	竹内美樹
掲載誌名:	日本看護学会論文集: 精神看護
年:	2009
研究方法:	その他
フロー番号:	5,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:52, 対照群／非曝露群:なし, 性別:男女, 年齢下限:65, 特性その他:高齢者介護予防教室に参加した高齢者、保健師と連携のうえ引きこもりがちな高齢者をあえて選択した。, 選定基準:高齢者介護予防教室に参加した高齢者,
プログラムの内容:	プログラムの内容:月１回の集団プログラム（社会参加を意図:運動、栄養、リズム体操指導、毎回プログラム後半の時間は参加者同士の声のかけあいやスタッフからのフォロー等を実施して全体としてのモチベーションの向上やモチベーションが下がっている人のフォローが図られた）+3ヶ月間毎日の個別ウォーキングプログラム, コンプライアンス:94%,
アウトカム指標:	アウトカム:抑うつ度（CESD）を介入前後で調査, 副次アウトカム:自尊感情尺度（ローゼンバーグの尺度）を介入前後で調査
結果概要:	結果の概要:参加前に抑うつを疑った 14 人のCESD得点を介入前後で比較すると有意な改善が認められた（20.4→14.1）。,

（うつ予防分科会）

No:	21
番号:	ICHU-2009228523
著者:	青木慶司，山口奈津，鈴木順子，藤原恵子，西村一弘，細江学，小林栄二，韓賢一，塩田薫，清水仁，古川潤子，酒井雅司
掲載誌名:	東京都医師会雑誌
年:	2009
研究方法:	その他
フロー番号:	3
セッティング:	地域在住者，
対象集団:	介入群／曝露群：31，対照群／非曝露群：0，性別：男女，年齢下限：65，特性その他：平均年齢　男性 75．3 歳　女性 74 歳，選定基準：特定高齢者で研究が実施された施設の通所型プログラムに参加していた者，
プログラムの内容:	プログラムの内容：1 回 1 時間半の運動器機能向上プログラムを週 2 回、3ヶ月間実施，観察期間：3ヶ月間，コンプライアンス：93.9%，追跡率：0.939
アウトカム指標:	アウトカム：基本チェックリストにおけるうつ予防・支援に関する質問項目，
結果概要:	結果の概要：うつ予防項目の得点平均値は 2.04→1.54 に改善していた。，

（うつ予防分科会）

No:	22
番号:	ICHU-2010054928
著者:	池野多美子
掲載誌名:	Geriatric Medicine
年:	2009
研究方法:	その他
フロー番号:	x
セッティング:	
対象集団:	
プログラムの内容:	
アウトカム指標:	
結果概要:	結果の概要:レビュー文献:　国際的研究動向は社会的支援からネットワークに注目が移り、現在ではその両者と抑うつの関連に注目が移行している。受領するサポートの合計量が少ないと抑うつが高まる。他種類のサポートを受領できることが抑うつを緩和する。家族や近所とのネットワークは抑うつを緩和する。配偶者の死別、友人の喪失、離婚などの喪失体験は抑うつと関連している。地域へのボランティア活動参加によって近隣ネットワークの増加と抑うつの低下が報告されている。高齢者から地域社会への働きかけと地域社会から高齢者への双方向の関係作りが抑うつ予防には重要である。,

（うつ予防分科会）

No:	23
番号:	PMID-17303264
著者:	S. Eyigor;H. Karapolat;B. Durmaz
掲載誌名:	Arch Gerontol Geriatr
年:	2007
研究方法:	その他
フロー番号:	4
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：33, 対照群／非曝露群：0, 性別：女性のみ, 年齢下限：65, 特性その他：ADLに問題がなく運動習慣のない65歳以上の女性, 選定基準：65歳以上の女性、ADLに問題なし、運動習慣なし, 除外基準：神経学的障害（脳卒中、パーキンソン病、麻痺）、重症心血管病変（急性心筋梗塞、鬱血性心不全、コントロール不良高血圧症）、運動に参加できない重症筋骨格系障害
プログラムの内容:	プログラムの内容：1回1時間、週3回8週にわたる運動プログラム（筋肉トレーニング、柔軟体操）。また週2回は30分以上のウォーキングをするよう指導された。運動は理学療法士の指導のもとグループで行われる。, 観察期間：8週間の介入前後期（詳報なし）, コンプライアンス：60.6%, 追跡率：60.6
アウトカム指標:	アウトカム：SF-36、GDS、身体機能測定,
結果概要:	結果の概要：SF-36 及び身体機能測定においては全ての項目において介入によって有意な改善が認められたが、GDSでは有意な変化は認められなかった。, 不利益：なし

（うつ予防分科会）

No:	24
番号:	ICHU-2006136328
著者:	黒澤美枝, 坂田清美, 丹野高三, 八重樫由美, 酒井明夫, 西信雄, 岡山明, 野原勝
掲載誌名:	岩手公衆衛生学会誌
年:	2006
研究方法:	その他
フロー番号:	4,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:2576, 対照群／非曝露群:なし, 性別:男女, 年齢下限:10, 年齢上限:90, 選定基準:精神保健福祉センター、自治体広報、自治体保健師等の呼びかけに応じてうつ病教室に参加した者,
プログラムの内容:	プログラムの内容:うつ病教室(2 部形式:レクチャー+小集団座談会), 観察期間:1 日, コンプライアンス:記載なし,
アウトカム指標:	アウトカム:「気分が落ち込んだら精神科を受診してみようと思う」「うつ病は薬で治すことができる」などのアンケート項目。 回答:はい、いいえ、わからない,
結果概要:	結果の概要:「気分が落ち込んだら精神科を受診してみようと思う」「うつ病は薬で治すことができる」などのアンケート項目に”はい”と回答する割合が有意に上昇した。(※本調査結果は ICHU2010054928 と一緒に解釈することが有用と考えられる。),

（うつ予防分科会）

No:	25
番号:	ICHU-2006254393
著者:	斎藤民, 李賢情, 甲斐一郎
掲載誌名:	日本公衆衛生雑誌
年:	2006
研究方法:	その他
フロー番号:	3,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:18, 性別:男女, 年齢下限:65, 特性その他:自治体への恒例転入者, 選定基準:自治体に転入してきた 65 歳以上転居者。,
プログラムの内容:	プログラムの内容:「地域ネットワークづくりおよび地域に関する情報の有効活用」を目的として 1 回 2 時間、2 週間毎に計 3 回にわたり地域の福祉や高齢者就労組織などについての情報提供や転居者同士の「転居後の困りそうなこと」についてのグループディスカッション等を実施。,
アウトカム指標:	アウトカム:介入前後のGDSを評価,
結果概要:	結果の概要:抑うつ度に変化は見られなかったが、日中独居頻度や介護保険外サービスについての認知度が改善していた。,

（うつ予防分科会）

No:	26
番号:	PMID-17050337
著者:	Mastel-Smith B, Binder B, Malecha A, Hersch G, Symes L, McFarlane J
掲載誌名:	Issues Ment Health Nurs
年:	2006
研究方法:	その他
フロー番号:	3,
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:20, 対照群／非曝露群:なし, 性別:女性のみ, 年齢下限:65, 年齢上限:92, 特性その他:在宅介護を必要とする女性, 選定基準:SPSMQの基準を満たした者,
プログラムの内容:	プログラムの内容:訪問介護者による週1回 40 分のライフレビュー計 6 回, 観察期間:6 週間, コンプライアンス:0.7, 追跡率:0.7
アウトカム指標:	アウトカム:介入 10 週間前の抑うつスコアと介入後(10. 16. 20 週後)のスコアを比較,
結果概要:	結果の概要:介入によって抑うつスコアは改善した。,

（うつ予防分科会）

No:	27
番号:	ICHU-2006312938
著者:	中村一平, 奥田昌之, 鹿毛治子, 國次一郎, 杉山真一, 芳原達也
掲載誌名:	体力・栄養・免疫学雑誌
年:	2005
研究方法:	その他
フロー番号:	3
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群:41, 性別:男女, 年齢下限:65, 特性その他:65 歳以上地域高齢者, 選定基準:65 歳以上、地域高齢者、転倒予防教室希望参加者, 除外基準:視覚障害を有する者、認知症患者
プログラムの内容:	プログラムの内容:運動プログラムを中心とした転倒予防教室1回2時間全 6 回, 観察期間:明記なし, コンプライアンス:明記なし(77%以上), 追跡率:0.77
アウトカム指標:	アウトカム:GDSを介入前後で比較評価,
結果概要:	結果の概要:GDSには有意な変化は認められなかった。全対象者では介入により歩行速度や柔軟性等の身体機能に改善が認められたが、うつ傾向群においては介入の有意な効果は認められなかった(有意ではないが改善している項目はあり、介入への反応が小さい)。GDS得点と介入語のIADLには強い負の相関が認められた。,

（うつ予防分科会）

No:	28
番号:	PMID-14570442
著者:	Brown SL, Vinokur AD
掲載誌名:	Am J Community Psychol
年:	2003
研究方法:	その他
フロー番号:	3
セッティング:	
対象集団:	介入群／曝露群:テーブルなし，対照群／非曝露群:テーブルなし，性別:男女，年齢下限:19，年齢上限:76，特性その他:533 名の配偶者のいる失業求職者。男性 55%、高卒以上の学歴が 94.1%、27.6%が大卒以上の学歴を有する。，選定基準:失職 13 週間以内で求職活動中の者，除外基準:以前の職場に 2 年以内に戻る意志がある者。重度のうつ状態。
プログラムの内容:	プログラムの内容:暴露:配偶者からの批判的言動と支援的言動（Abbey et al's Social Support Scale），観察期間:6 ヶ月，
アウトカム指標:	アウトカム:希死念慮（the Hopkins Symptoms Checklist）により評価，
結果概要:	結果の概要:うつ状態にある失業者においては配偶者からの批判的言動および支援的言動のいずれもが希死念慮を高めることが示された。うつ状態にない対象者ではこの関連は認められなかった。，

（うつ予防分科会）

No:	29
番号:	ICHU-2003140249
著者:	河野あゆみ，金川克子，伴真由美，北浜陽子，松原悦子，林平成子，毎田純子，坂下重子，宮中美花，鈴木美穂，田上景子
掲載誌名:	未病と抗老化
年:	2002
研究方法:	その他
フロー番号:	3
セッティング:	地域在住者,
対象集団:	介入群／曝露群：67，対照群／非曝露群：44，性別：男女，特性その他：旧厚生労働省自立度判定基準ランク J1（何らかの障害はあるが外出ができる）以下の在宅高齢者，選定基準：旧厚生労働省自立度判定基準ランク J1 以下，除外基準：すでにデイサービス利用中、FIM 運動評価得点 85 点未満
プログラムの内容:	プログラムの内容：知的・創作的レクリエーション、運動、健康教育を毎月 1 回 4－5 時間，観察期間：1 年，コンプライアンス：1年後調査への参加割合は 44.7%（67/150 名），追跡率：0.447
アウトカム指標:	アウトカム：プログラム参加,
結果概要:	結果の概要：うつ予防研究ではないが、事業に参加した者と比較して参加しなかった者を比較したところ、非参加者はソーシャルネットワーク得点が低かった。この時点では GDS によるうつ状態評価と参加との関連は認められなかったが、参加回数が 9 回以上の者とそれ以下の者を比較すると参加回数が少ない群ではうつ状態得点が観察期間を通じて高かかった。,